こども新聞
# 週刊かほピョンプレス
毎週日曜発行
2021 3/7
河北新報社 TEL.022-211-1111（月曜から金曜）

震災10年特集

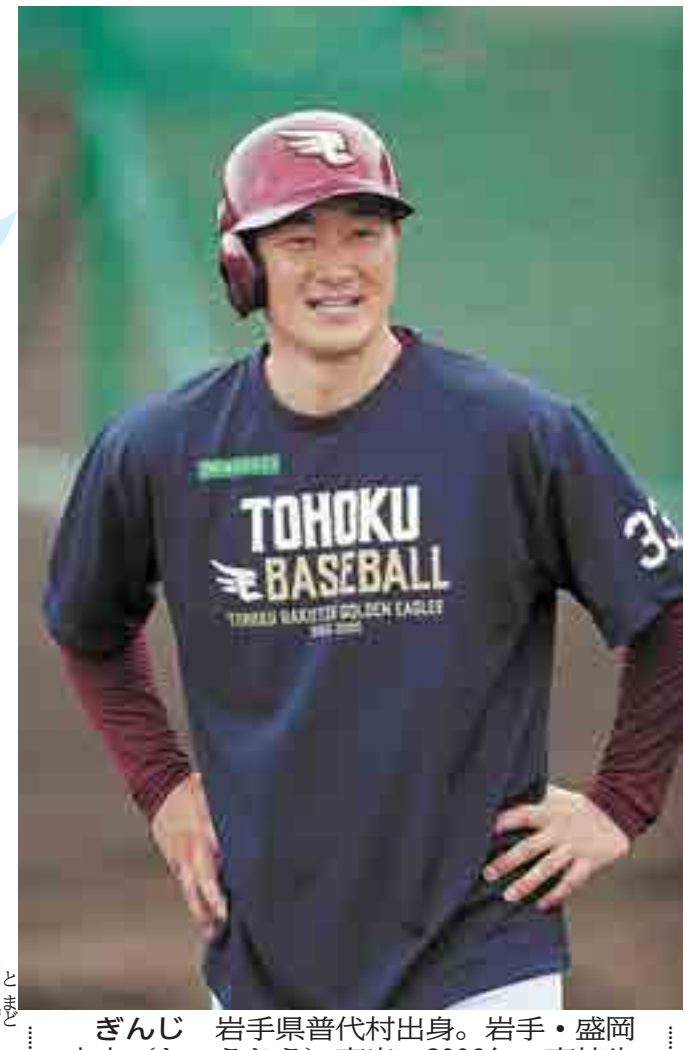
3月11日で東日本大震災の発生から10年。今月の1面は震災10年を特集します。第1週は、被災した岩手県普代村の出身で、プロ野球東北楽天の銀次選手に、子ども時代の思い出と震災で何を考えたかを聞きました。

◇

小さい頃はほとんど家にいなくて、外で遊び回っていました。家にいるのは食事か寝るときくらい。野球はもちろん、つりやサッカー、かくれんぼなどに熱中しました。

## みんな子どもだった!? ⑫

## 銀次さん（33歳・東北楽天内野手）



小学生時代にあこがれた選手は高橋由伸さん。足を上げて打つところがかっこよく見えました。

ぎんじ　岩手県普代村出身。岩手・盛岡中央（ちゅうおう）高出。2006年、高校生ドラフト3巡（じゅん）目で捕手（ほしゅ）として東北楽天入り。通算1150安打。右投げ左打ち。

野球が大好きで、田んぼなど広い場所があると投げたり打ったり。小学2年でユニホームにあこがれ、スポーツ少年団に入りました。守るより打つ方が好きでした。

小さな村のスポ少でしたが、県大会で優勝し東北大会に出場したのが思い出。必死でプレーしました。いま振り返るとすごい成績ですね。

ドラフトで指名されたとき「やった！」という思いよりは、戸惑いが大きかった。プロは目指していたものの「え、自分が？」という思いでした。プロ入り当初は、周りのレベルが高すぎて自信を持てませんでした。

「やっていける」と手応えを感じたのは震災があった年から。岩手は震災で大きな被害を受けました。小さい頃にプレーしていた球場がなくなって悲しかった。

## 被災地思い 今後も必死に

これからも被災地を思いながらプレーしたい。震災は生きている以上、忘れられない出来事。若い選手にも震災の経験を語り継ぎたいです。

夢は被災地からプロ野球選手を出すこと。野球教室を開いて子どもたちに刺激を与えたい。そして、もう一度日本一になって、みんなの笑顔が見たいですね。

当時の星野仙一監督は、全然打てず下手だったのになぜか起用してくれた。それに必死に応えようとしたし、「岩手、東北出身の自分が何とかしなきゃ」と考えました。そこから野球人生が変わりました。

2013年に日本一になったとき、「被災地に少しでも笑顔が戻ったのかな」と感じました。日本一を喜ぶファンの顔を見て、とても幸せでした。

みんな思い出
みんな言いたい
みんな知りたい
みんな守ろう
みんなトモダチ

## 今週の注目ニュース

◇7日（日）　消防記念日

1948年のこの日、消防組織法が施行され、市町村が消防業務を担当することになったよ。それまでは警察が消防の仕事もしていたんだ。国には消防庁が設置され、記念日に制定されたよ。

## きょうの紙面

2面　サイエンス　3面　3分チャレンジ
4・5面　新連載　わが校わがまち　スクール通信
6面　絵でわかる　こども英語
7面　投稿特集
8面　子育て・教育相談コーナー